



北理研だより



< 193号 平成28年(2016年)7月14日 発行 >

第1回実行委員研修会を行いました

6月23日(木)に日新小学校において、標記研修会を開催いたしました。当日は、大会授業者に授業公開をしていただき、その後、日新小学校の先生方と本会実行委員が集まり、全体会を行い、その後、各学年部会に分かれ、11月の札幌支部大会に向けた授業づくりについて検討会を行いました。

1. 全体会

開会にあたって、村上力成会長から「主題説明会の前に授業を見せていただいたが、仲間と共に学び合う子どもの姿が素晴らしかった。北理研は結成から63年目を迎え、これまで共同研究のスタイルをとってきた。日新小の皆さんと一緒に考えながら授業を作っていきたい。日新小の先生方の意見を聞きながら授業を作っていくことで、日新小の子どもたちのために良い授業を作るとともに、私達も成長していきたい。」という挨拶がありました。

続いて荒川巖校長より挨拶と日新小学校の職員紹介があり、北理研からは実行委員を紹介しました。その後、玉山大補研究部長による日新小学校の研究についての説明と、北理研の研究担当による、今後の研究についての説明がありました。



○日新小の研究について（玉山 大補 日新小研究部長）

日新小学校では、学校教育の重点目標「輝きと響き合いの学校」の具現化に向け、また昨年度までの研究から浮き彫りになった、主体性や協働性、学んだことを生かす力を伸ばすために、以下のような研究主題、副主題、視点を設定して4か年計画の1年目をスタートさせているとの説明がありました。

研究主題「自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」

「自ら学び」

→個が主体的に学ぶだけでなく、集団として協働しながら学びを深めていく。

「たくましく生きる」

→学び続ける意欲をもち、生き抜く力を付けていく。

研究副主題「社会とのつながりを実感し、学び続ける意欲が生まれる授業」

「社会とのつながりを実感する」

→それぞれの教科で「社会」を広く捉える。子どもが自ら人・物・ことなどの社会に関わり、他教科や生活に活かすことへの気付きことから社会とのつながりを実感し、学びを深めていく。

「学び続ける意欲が生まれる」

→社会とのつながりを実感することで意欲が生まれ、学び続ける価値を感得する。

研究の視点

視点1

「社会」とのつながりを実感できる教材化育むべき「見方や考え方」を柱に、単元目標、学習指導要領、活動が一体化した教材構造を創り上げる。

視点2

「見方や考え方」を育む教師の関わり
学習の前後で子どもの「見方や考え方」がどのように変容したのか、その背景に教師のどのような関わりがあったのかを明らかにしていく。



○研究内容等説明（鈴木 圭一 北理研研究部長）

札幌支部大会に向けて、鈴木圭一・北理研研究部長が北理研の考える理科の授業の在り方などについて説明をしました。

・北理研と日新小学校の研究の共通点

日新小学校が大切にしている、学びを通じた人間形成、学びの継続を求める考え方 → 北理研が目指す問題解決の姿と同じである。

日新小学校の「学び続ける意欲を高めるためには、一人一人の見方や考え方を育むことが大切である。」という主張 → 理科の教科のねらいそのものである。



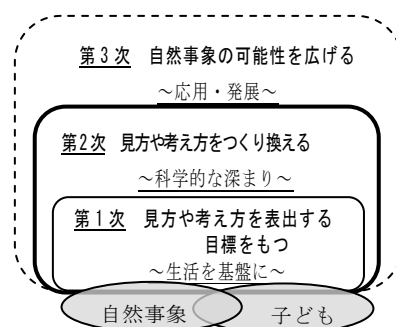
・目指す授業

学び続ける子どもの主体性を、「子どもの目標」とその変容から考えていく。

自然事象とのつながりを深めるためには、子どもの分かり方で自然事象を捉えることが大切である。そのために「子どもの分かり方に沿った三次の学び」を構成する。

子どもの自然事象に対する見方や考え方を育むために、子どもの発達に合った追究と仲間の存在、承認が大切である。そこで、自然事象を共に見つめた仲間と見方や考え方を語り合いたくなるような授業を構成する。

理科の学びの特性をふまえた問題解決を実現することは、子どもの人間形成につながっていく。そして、問題解決を通じた人間形成こそ、日新小学校と北理研が目指す研究主題につながっていくものとする。



2. 授業検討会

全体会終了後、学年部会毎に授業検討会を行いました。



3年生部会「風やゴムのはたらき」

子どもの姿を基に授業像を具体的に話し合いました。その場で繰り返し実験できる教材（くるくるクレーン）について、肯定的な意見をいただきました。風の強さから、受ける側のプロペラの工夫に子どもの追究が向かう実践を目指します。

4年生部会「とじこめた空気と水」

授業公開を基に、4年生の子どもの学び方について意見交流を行いました。そして、子どもが自ら空気に着目していく活動について部会の主張を伝えました。日新小の素直な子どもが、集団で学ぶ価値を感じて主体的に活動する授業を目指します。



5年生部会「ふりこ」

5年生が進んで追究する姿を具体的な授業場面で話し合いました。ふりこの周期とそれを変える要因の関係が見えてきたときに、子どもは問題意識をもち、繰り返し働きかける姿を生むことが共有できました。授業づくりでは、子どもが事象の変化に歓声をあげる追究を目指します。

6年生部会「てこのはたらき」

子どもが活動しながら事象の規則性に気付く学習展開が大切であると話し合いました。日常生活でのつり合わせる経験を基に、てんびんでつり合わせる活動から学習を始め、見付けたきまりが身近なてこにも使われていることが実感できるような学習を目指します。



3. 授業者の紹介

第2回札幌支部大会では、以下の先生が授業実践をしていただきます。

3年生「風やゴムのはたらき」



3年2組 後藤 史佳 先生



3年3組 後藤 めぐみ 先生

4年生「とじこめた空気と水」



4年2組 玉山 大補 先生



4年3組 澤橋 菜月 先生

5年生「ふりこ」



5年1組 澤口 小苗 先生



5年3組 阿部 翔平 先生

6年生「てこのはたらき」



6年2組 和田 諭 先生



6年3組 根布谷 佳寿沙 先生

北海道小学校理科学研究会 事務局長 永田 明 宏 (札幌北小学校長)

TEL.791-3831 Fax.791-8163 e-mail : akihiro.nagata@city.sapporo.jp

担当 : 三浦 貴 広 (広報部長) もみじの森小学校

TEL.803-7810 Fax.898-3344